

第115期年次報告書 2020年3月1日 ▶ 2021年2月28日

株式会社 **東京衡機**
証券コード：7719



TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY



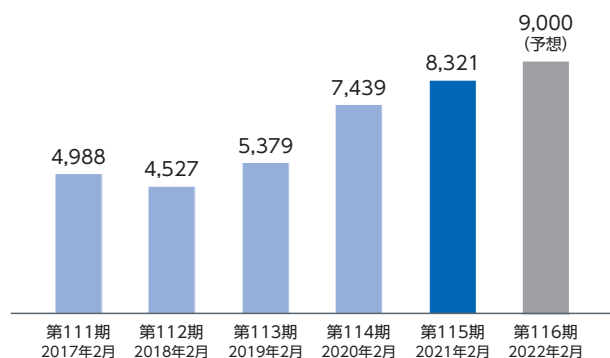
財務ハイライト

決算のポイント

- ✓ 試験機事業は、新型コロナウイルスの影響で受注活動や現地工事に対する制約が生じ、オーダーメイドの大型試験機を中心に受注・売上が減少
- ✓ 商事事業は、訪日観光客の激減で従来からの量販店向け商品の売上は落ち込んだものの、海外向けの商品の取引が大きく伸び売上高増加に貢献
- ✓ エンジニアリング事業は、社会インフラ向けのゆるみ止め製品の売上は比較的堅調に推移し一定の利益を確保したものの、好調であった前年度に比べて減少
- ✓ 海外事業は、新型コロナウイルスの影響等で欧米向けのオフィス家具部品を中心に売上が落ち込んだものの、コスト管理の徹底により損益は改善

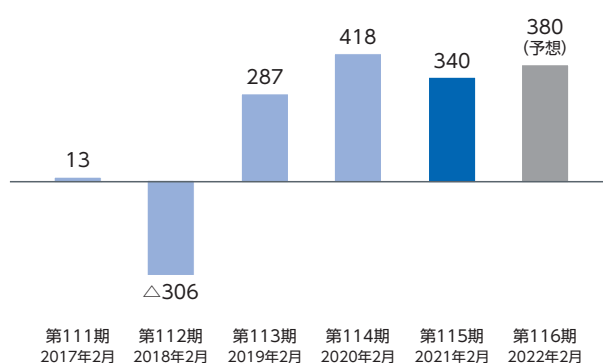
売上高

(百万円)



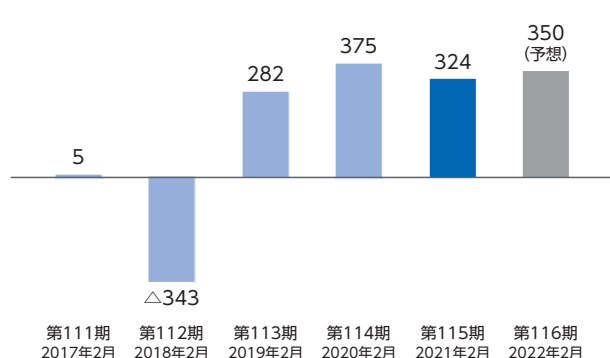
営業利益

(百万円)



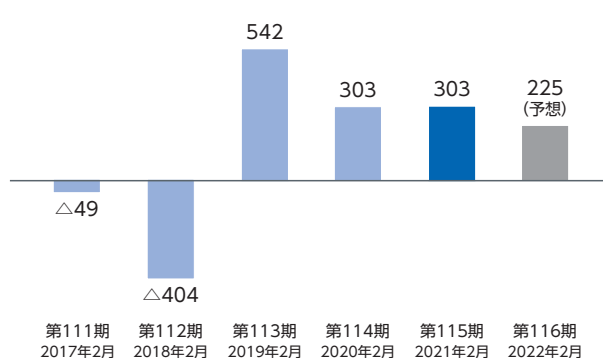
経常利益

(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



	第111期 2017年2月	第112期 2018年2月	第113期 2019年2月	第114期 2020年2月	第115期 2021年2月
財務関連データ (百万円)					
売上高	4,988	4,527	5,379	7,439	8,321
営業利益又は営業損失 (△)	13	△306	287	418	340
経常利益又は経常損失 (△)	5	△343	282	375	324
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失 (△)	△49	△404	542	303	303
総資産	4,586	4,052	4,358	4,318	4,468
純資産	1,426	896	1,434	1,740	2,041
自己資本当期純利益率 (ROE) (%)	△3.3	△34.8	46.5	19.1	16.0
自己資本比率 (%)	31.1	22.1	32.9	40.3	45.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	387	△354	448	196	207
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75	105	△218	△24	△98
財務活動によるキャッシュ・フロー	△140	12	△47	117	△129
現金及び現金同等物の期末残高	672	439	618	906	886
1株当たりデータ (円) *					
1株当たり当期純利益又は純損失 (△)	△7.01	△56.65	76.08	42.61	42.52
1株当たり純資産	199.89	125.75	201.17	244.06	286.32

※2018年9月1日付株式併合 (10株→1株) を勘案した値を遡及して記載しております。

トップインタビュー



代表取締役社長
竹中 洋

企業理念

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY
「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を尊重する”とともに、やさしさと温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、地域からも“信頼される企業市民”であり続けます。

売上高100億円を2年後の目標として 着実かつ堅実に歩み続けていきます。

Q 2021年2月期を振り返り、営業状況をご説明願います。

A コロナ禍によるマイナス影響を受けながらも、3期連続で増収および黒字維持を果たしました。

この1年間は、新型コロナウイルス感染症による市場への影響が拡がり、特に主力の試験機事業は、ここ数年増収基調であったものの、顧客企業における設備投資の中止や先送りが発生する中で、営業活動や製品の据付工事、修理・メンテナンスサービスも制約を受けるなど、厳しい状況に見舞われ減収減益となりました。

その一方で商事業業は、中国を主とする海外向け生活関連商品の販売が順調に伸び、大幅な増収となりました。また、ゆるみ止めナット・スプリングの独自技術を武器とするエンジニアリング事業は、社会インフラ向け販売を中心に比較的堅調に推移し、減収ながら一定の利益を確保しました。

中国でプラスチック部品を製造し、現地企業および日系企業向け販売、欧米向け輸出を行う海外事業は、コロナ禍の影響により大幅な減収となりましたが、懸案となっていた中国子会社の経営効率改善が進み、損失を大きく圧縮しました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高83億21百万円（前期比11.8%増）、営業利益3億40百万円（同18.8%減）、経常利益3億24百万円（同13.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益3億3百万円（同0.2%減）となり、3期連続で増収および黒字維持を果たしました。

私が代表取締役社長に着任して3年が経過しました。この間、社員が丸丸となって業績の回復に努め、商事業業を試験機事業に次ぐ2本目の柱に育成しつつ、中国子会社の業務・コスト

効率を改善していく全社的な構造改革を進めてきました。こうした取り組みが実を結び、コロナ禍によるマイナス影響を乗り越えて、増収・黒字基調を維持できる企業体質を構築できたものと捉えています。

Q 今後の成長について、目指す方向性をお聞かせください。

A 新分野で成長機会を獲得すべく、新たな試験機やエンジニアリング技術の開発に注力します。

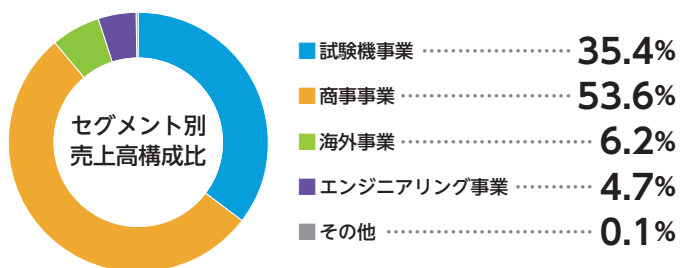
当社は、2年後の2023年3月に創業100周年を迎えます。その節目の年に「売上高100億円」への到達を目指し、これを通過点として次の100年に向け、さらなる成長・発展を実現していきたいと考えています。

「試験機」、「商事」、「エンジニアリング」、「海外」の4事業は、それぞれ異なるビジネスモデルを異なる市場において展開しています。しかし、全ての事業に共通しているのは、社会の「安全・安心」を支え、人々の豊かな暮らしに寄与する価値提供であるという点です。自社製造の試験機やプラスチック部品、ゆるみ止めナット・スプリングの独自技術によって、世の中が求める「信頼」の構築を担う一方、多種多様な生活関連商品の仕入・供給を通じて、中小企業の海外ビジネスをサポートするなど、目に見えないところで大きな役割を果たしています。

今後は、時代の変化に合わせて価値提供の形を進化させ、特にデジタル化の流れやEV市場の拡がり、脱炭素社会の構築などにかかわる新分野で成長機会を獲得すべく、新たな試験機やエンジニアリング技術の開発に注力していきます。

2022年2月期は、増収・黒字基調を定着させ、持続的成長の基礎として確立する重要な1年となります。市場環境は、コ

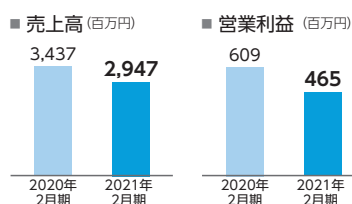
セグメント別の概況



試験機事業

- 事業内容**
試験機・計測機器の開発・設計・生産およびメンテナンス・校正・受託試験サービス
- ビジョン**
産業・科学の基盤技術を支える信頼感と存在感のある試験機企業を目指す。

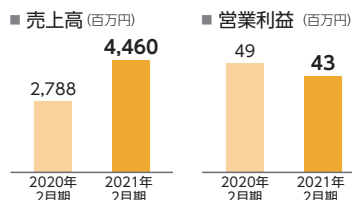
売上高 **2,947**百万円 営業利益 **465**百万円



商事事業

- 事業内容**
 - 海外向けの各種商品の仕入・販売
 - 日本国内向けの一般雑貨品等の仕入・輸入・販売
- ビジョン**
アジアを中心とした国際マーケットを視野に入れビジネスの拡大を目指す。

売上高 **4,460**百万円 営業利益 **43**百万円

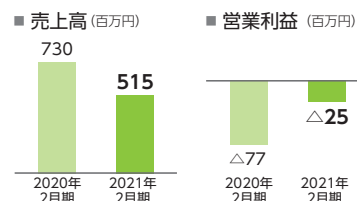


1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供しているエンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

海外事業

- 事業内容**
中国子会社におけるプラスチック成型品等の製造・組立・販売等
- ビジョン**
中国子会社のプラスチック成型事業を中心に安定的な収益基盤を確立する。

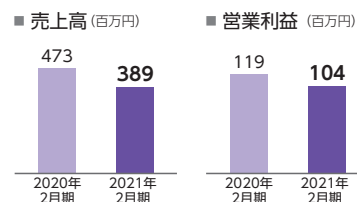
売上高 **515**百万円 営業利益 **△25**百万円



エンジニアリング事業

- 事業内容**
 - ゆるみ止めナット・スプリングの製造・販売、その他建築資材の販売
 - 不動産の賃貸等
- ビジョン**
社会に安全・安心を提供し豊かな社会の実現に貢献する企業を目指す。

売上高 **389**百万円 営業利益 **104**百万円



その他

売上高 **8**百万円 営業利益 **0**百万円

コロナ禍の影響から徐々に回復に向かうものと見られ、当社グループでは試験機事業、商事事業およびエンジニアリング事業の着実な成長と、海外事業のさらなる業績改善に取り組んでいます。

これを踏まえて2022年2月期の連結業績予想の公表値は、売上高90億円(当期比8.2%増)、営業利益3億80百万円(同11.7%増)、経常利益3億50百万円(同7.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2億25百万円(同25.8%減)としています。

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 減資により繰越損失を解消。株主の皆様の期待に応えることができる財務体質を維持します。

このたび当社は、第115回定時株主総会にてご承認いただき、2021年7月1日付で減資による繰越損失の解消を実施することとしました。この減資は、2021年2月末現在の資本金のう

ち、約22億13百万円を減少して5億円とし、また資本準備金のうち、約96百万円を減少して約1億4百万円とし、これらの減少額の振り替えにより、2021年2月末現在の繰越損失約23億9百万円を全額解消するものです。繰越損失の一掃をもって、株主の皆様のご期待に応えることができる財務体質を維持し、早期の復配を実現したいと考えています。

当社グループは、「試験機」、「商事」、「エンジニアリング」、「海外」の事業ポートフォリオを、未来に架ける「四つの橋」として築き上げ、売上高の拡大により成長力を回復させてきました。今後は、利益の拡大に重点を置いた着実かつ堅実な経営を実行していくことで、企業価値を高めながら、より大きな社会貢献を果たしてまいります。

株主の皆様におかれましては、これからの当社グループの事業の変化にご注目いただき、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

スマートハイパーロードナット生産設備増強

(株)東京衡機エンジニアリングでは、ゆるみ止め性能が高いスマートハイパーロードナットの受注増加に伴い、生産設備の増強を行いました。今回増設した設備は「カット機械」と呼ばれるもので、スマートハイパーロードナットを生産する上で最も重要な設備になります。

スマートハイパーロードナットはナットの側面に横穴が開いていますが、「カット機械」はこの横穴を開けるための設備です。鋼材に穴を加工する際はドリルかパンチ（金型）を使用しますが、ドリルは正確な穴が開けられるものの、時間がかかり量産には向きません。また、パンチ（金型）は短時間に多くの穴を開けられるため量産には向いていますが、スマートハイパーロードナットの側面のような薄い面にパンチ（金型）で穴を開けると歪みやバリが出やすく、非常に難しい加工となります。(株)東京衡機エンジ

ニアリングでは「カット機械」に改良を加えるとともに金型を工夫し、側面の横穴を量産しても歪みやバリが出ない加工を実現しております。

このたび「カット機械」を増設したことで、短い納期で多品種のスマートハイパーロードナットを生産することが可能となり、従来に比べ約1.5倍の生産数量を確保することができるようになりました。

スマートハイパーロードナットは毎年お客様からの要望に応じ10~15品目の品種を増やしており、現在では77品目のラインナップを揃えております。今回の設備増強により、今後さらなる生産増と品目増にも対応できるようになりましたので、引き続きスマートハイパーロードナットの普及・拡販に努めてまいります。



「カット機械」外観



▶ (株)東京衡機試験機がYouTubeで動画公開中

当社は2013年にYouTubeチャンネルを開いたしましたが、昨年、(株)東京衡機試験機のチャンネルとして、「自分達の家族が見ても興味を持つように、できるだけ分かりやすく」をコンセプトに内容の見直しを行い、新規動画の投稿を再開いたしました。試験機に直接触れたこと

がない方にも興味を持っていただければ幸いです。

投稿動画の数はまだ少ないですが、今後も定期的に動画の投稿を継続していきますので、下記のURLもしくはQRコードからアクセスしてみてください。

公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/TOKYOKOKI>



万能試験機で引張試験をしてみる



シャルピー衝撃試験機とは



ELA電気リニア疲労試験機デモンストレーション



株式情報 (2021年2月28日現在)

株式の概況

発行可能株式総数	26,000,000株
発行済株式の総数*	7,133,791株
株主数	3,028名

※上記の発行済株式の総数には、自己株式2,929株を含みます。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (百株)	持株比率 (%)
Dream Bridge株式会社	21,401	30.01
竹中 洋	3,800	5.32
株式会社AIIN	2,488	3.48
J.P. MORGAN SECURITIES PLC	1,716	2.40
佐藤 充弘	1,592	2.23
岡崎 由雄	1,050	1.47
上野 拓	930	1.30
石井 照義	808	1.13
山下 良久	695	0.97
新沼 吾史	511	0.71

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式 (2,929株) を控除しております。

株式の分布状況



■ 事業法人等	24,719百株	34.65%	■ 1単未満	179名	5.91%
■ 個人・その他	41,813百株	58.62%	■ 1単以上	1,678名	55.42%
■ 金融機関	337百株	0.47%	■ 5単以上	393名	12.98%
■ 証券会社	1,492百株	2.09%	■ 10単以上	594名	19.62%
■ 外国法人等	2,947百株	4.13%	■ 50単以上	103名	3.40%
■ 自己名義株式	29百株	0.04%	■ 100単以上	81名	2.67%
合計	71,337百株	100%	合計	3,028名	100%

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 ※2021年5月28日付で株主名簿管理人を三井住友信託銀行株式会社から三菱UFJ信託銀行株式会社に変更いたしました。
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載URL https://www.tksnet.co.jp/) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行株式会社) にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

株式会社 **東京衡機**
TOKYOKOKI CO. LTD.

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
TEL 03-5207-6760 FAX 03-5298-6111

ホームページを リニューアルしました

NEW

IR活動推進の一環としてデザインを一新し、スマートフォンでも見やすいサイトにしました。

<https://www.tksnet.co.jp/>



会社概要 (2021年2月28日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年 (大正12年) 3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	14名 (連結241名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行 ● グループ子会社の統括管理およびサポート ● 商事事業 【グループの事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● 試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス ● ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス ● 一般消費者向け商品の仕入・販売、各種サービス

役員等 (2021年5月27日現在)

代表取締役社長	竹中 洋
専務取締役 エンジニアリング事業担当兼商事事業担当	平田 真一郎
常務取締役 試験機事業担当	上野 正男
取締役 管理本部長	石見 紀生
取締役 (社外取締役)	石渡 隆生
取締役 (社外取締役)	仮屋 浩一
取締役 (社外取締役)	藤田 泰三
常勤監査役	鶴見 孝
監査役 (社外監査役、弁護士)	水川 聡
監査役 (社外監査役)	玉虫 俊夫
監査役 (社外監査役、公認会計士・税理士)	瀬山 剛
会計監査人	アスカ監査法人

事業拠点

国内子会社	
株式会社東京衡機試験機	
本店・東京支店	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル
相模原工場	神奈川県相模原市緑区三井315番地
豊橋工場・中部営業所	愛知県豊橋市北島町字北島202番地
大阪支店	大阪市淀川区西中島五丁目12番8号 新大阪ロースビル7階
株式会社東京衡機試験機サービス	
本社	神奈川県相模原市緑区三井315番地
西日本営業所	大阪府大阪市淀川区西中島七丁目8番17号 花原第五ビル8階
株式会社東京衡機エンジニアリング	
本社	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

海外子会社

- 無錫三和塑料製品有限公司 (中国江蘇省無錫市)
- 無錫特可思衡機貿易有限公司 (中国江蘇省無錫市)



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用し印刷しています。